



2017年4月より「評価・IRセンター」になりました

センター長 神谷 修

昨年度までの「評価センター」は、2017年4月より「大学評価・IRセンター」になりました。「なんだ、IRをつけただけじゃないか。」と思われるかもしれませんが、このIRは、大学の発展にはとても重要で、構成員の協力無しでは成立しないことです。そのため、いまさらではありませんが少し、説明いたします。

IRは、“Institutional Research”であり、日本語では「機関調査」と訳されます。大学の学生支援、教育の質、満足度の向上のために、学内のデータを集約して分析してその結果を、構成員に返すものです。分析結果を機関に返す試みは、工学的にはフィードバックであり、システムを安定成長させるには極めて重要な試みです。組織作りのスタンダードであるJABEE（日本技術者教育認定制度）やISO14001（環境マネジメントシステム）と同じように、PDCAのサイクルをまわすことが重要です。

これまでのPDCAを、中期目標を例にして考えると、PDC₁（目標、業務実績、自己評価）を取りまとめて文部科学省と大学改革支援機構に提出して、評価結果C₂をもらっていたこととなります。そして、評価結果に基づく、改善活動(A)に関しては組織的には行われてこなかったと言えます。大事なことは、決定的な評価結果C₂をもらう前に、自らの機関内で気がついてPDC₁Aを回して、改善することです。これを実施するためのセンサー役（見張り役）となるのがIRの役目です。そのことからIRは、改善活動の意思決定を支える機能であると言えます。

具体的に課題を挙げて分析し、改善策を見出すことも必要です。IRとして分析すべき「課題」を、Research Question (RQ)と言います。初めに、緊急を要するRQは、そのままでは第3期中期目標を達成できないと予測される事柄です。これらのRQはいち早く見出し、全学的に協力し、目標以上に達成できるように改善してゆくべきと存じます。まずは悪い評価をもらわないように、機関内でいち早く手を打つことが大事です。

次に、大事なRQを3つ上げると、学生の満足度の向上、外部資金の獲得増額、研究力の向上です。いずれも秋田大学の弱点であり、背水の陣です。上記のRQを正しく分析し、その結果を基にして機関内の全員が我が事ととらえて改善してゆく必要があります。皆様のご理解の程をよろしくお願いいたします。

最後にうれしい報告をして締めくくりたいと思います。最近、大学ランキングを耳にすることが多くなってきました。ランキングの評価指標は数多くあります。秋田大学は、総合的な世界大学ランキングでは低いのですが、ある指標ではナンバーワンに躍り出ます。2017年当初に日本経済新聞社が中心になり、日本の全上場企業を含む4701社にアンケートして得られた847社からの回答を基にまとめた「就職力ランキング」の結果、なんと秋田大学は、3つの指標でナンバーワンになっています。ひとつには、「採用を増やしたい大学ランキング」がダントツで1位です。採用実績のある企業のうち78%が秋田大学生の採用を増やしたいと回答しました。また、4つの評価側面のうち、「知力」と「独創性」は東大が1位ですが、「行動力」と「対人力」で秋田大学がナンバーワンでした。特に対人力では飛びぬけております。対人力の得点が、8点台であったのは秋田大学だけでした。このようなランキングでナンバーワンになったことは前代未聞でしたので、喜びよりも驚きを隠し切れません。今後、このような秋田大学の特色あるランキングをIRでも冷静に分析して、秋田大学の発展に結び付けてゆくことは大切なことだと考えます。

秋田大学評価・IRセンターは、「国内就職力ランキングナンバーワン」という推進力と、「総合世界ランキング低迷」という向かい風の2つの明確なRQを頂いて、スタートを切りました。

「第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果」について

平成29年6月6日に国立大学法人評価委員会から「第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果」が公表されました。評価結果の概要は下記のとおりです。

なお、評価結果の全文は秋田大学HPに掲載しております。

(http://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_check.html)

教育研究等の質の向上の状況

○教育【中期目標の達成状況がおおむね良好である】

- ・「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断された。

○研究【中期目標の達成状況が良好である】

- ・「研究に関する目標」に関する中期目標（2項目）のすべてが「良好」であり、これらの結果を総合的に判断された。

○その他【中期目標の達成状況がおおむね良好である】

- ・「その他の目標」に関する中期目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果が総合的に判断された。

業務運営・財務内容等の状況

○業務運営の改善及び効率化【中期目標の達成状況がおおむね良好である】

- ・中期計画の記載8事項中6事項が「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、機動的で開かれた学部運営体制が構築されているが、2事項について「中期計画を十分に実施していない」と認められること等を総合的に勘案された。

○財務内容の改善【中期目標の達成状況が良好である】

- ・中期計画の記載5事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案された。

○自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供【中期目標の達成状況が良好である】

- ・中期計画の記載2事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案された。

○その他の業務運営に関する重要目標【中期目標の達成状況が不十分である】

- ・中期計画の記載5事項中4事項が「中期計画を十分に実施している」と認められたが、1事項について「中期計画を十分には達成していない」と認められるとともに、寄附金の使途変更における手続きの瑕疵があったこと等を総合的に勘案された。

【参考】

国立大学法人評価委員会は上記の7項目について次の5種類により達成状況を示す。

- 「中期目標の達成状況が非常に優れている」
- 「中期目標の達成状況が良好である」
- 「中期目標の達成状況がおおむね良好である」
- 「中期目標の達成状況が不十分である」
- 「中期目標の達成のためには重大な改善事項がある」

全国の国立大学法人(大学共同利用機関を含む)の評価結果の状況は、下記のとおりです。

第2期中期目標期間 全国国立大学法人等 項目別評価結果

教育研究等の質の向上の状況

中期目標の達成に向けての評価	評価項目別法人数(全90法人) (*秋田大学の評価)			
	教育	研究	社会貢献・国際化等	共同利用・共同研究
中期目標の達成状況が非常に優れている	—	5 (6%)	1 (1%)	—
中期目標の達成状況が良好である	11 (12%)	14(*) (16%)	21 (24%)	1 (33%)
中期目標の達成状況がおおむね良好である	78(*) (87%)	70 (78%)	67(*) (75%)	2 (67%)
中期目標の達成状況が不十分である	1 (1%)	1 (1%)	—	—
中期目標の達成のためには重大な改善事項がある	—	—	—	—

各欄の()内は、全法人数に占める当該法人数の割合

業務運営・財務内容等の状況

中期目標の達成に向けての評価	評価項目別法人数(全90法人) (*秋田大学の評価)			
	業務運営	財務内容	自己点検・情報公開等	法令遵守、施設整備等
中期目標の達成状況が非常に優れている	13 (14%)	6 (7%)	7 (8%)	5 (6%)
中期目標の達成状況が良好である	56 (62%)	83(*) (92%)	82(*) (91%)	50 (56%)
中期目標の達成状況がおおむね良好である	18(*) (20%)	—	1 (1%)	22 (24%)
中期目標の達成状況が不十分である	1 (1%)	1 (1%)	—	13(*) (14%)
中期目標の達成のためには重大な改善事項がある	2 (2%)	—	—	—

各欄の()内は、全法人数に占める当該法人数の割合

国立大学法人秋田大学の中期目標・中期計画及び平成29年度年度計画について

中期目標・中期計画及び年度計画に関する下記の事項については、大学ホームページ (http://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_target.html) に掲載しております。

- ・「国立大学法人秋田大学が達成すべき業務運営に関する目標（中期目標）」
(平成29年3月21日 文部科学大臣変更提示)
- ・「国立大学法人秋田大学の中期目標を達成するための計画（中期計画）」
(平成29年3月29日 文部科学大臣変更認可)
- ・「中期目標・中期計画一覧表」(平成29年3月29日現在)
- ・「国立大学法人秋田大学 平成29年度の業務運営に関する計画（年度計画）」
(平成29年3月31日 届出)

平成29年度評価・IRセンターの活動について

1. 中期目標・中期計画に関する取組

1) 評価・IRセンターが担当している平成29年度年度計画を実施する。

※中期計画【57】「地域や社会の要請が高い分野の人材を育成するため、学長のリーダーシップの下で活動する評価・IRセンター及び大学戦略室において、IRを用いた分析等を行い、教育研究組織や人員配置等の見直しを行う。」

※中期計画【64】「中期目標・中期計画を確実に遂行するため、評価・IRセンターにおいて自己点検・評価を継続的に行うとともに、学内の各種情報を集約化のうえ、大学ポートレート上に公開する。また、本学が抱える課題を分析のうえ、その内容を役員ミーティングや大学運営会議に諮り、学長のリーダーシップの下、業務改善や教育研究の質の向上に関する企画の実施などを通じて大学運営に活用する。」

2) 平成28事業年度実績報告書の作成、平成29年度年度計画の進捗状況の確認、及び平成30年度年度計画作成のための学内の連絡調整を行う。

2. 内部質保証の取組

- 1) 自己点検・評価に関する手法の調査・研究を行い、その結果をもとに改善に努め、これによって、その質を自ら保証することを目指す。
- 2) 点検・評価に関する体系的かつ継続的な研修・視察等を実施する。

3. 広報活動

- 1) センター年報・研究紀要を発行（ペーパーレス化）する。（平成29年度末）
- 2) センター広報を発行し、大学評価に関わる各種情報を提供する。（随時）

4. その他

上記以外に評価に関する活動を適宜行う。

広報へのご意見などは評価・IRセンターへ

TEL: 018-889-2206 (総務企画課評価・IR室) / FAX: 018-889-2939 / E-mail: sokikaku@jimu.akita-u.ac.jp